城西国際大学

福祉教育センターニュースレター

ウェルセイリング

No. 17

Mar.2017

JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY

CONTENTS

○はじめに …… 3 p

○現役合格をめざして

・国家試験受験対策 …… 4 p

・私の勉強方法 …… 6 p

○実習報告

・社会福祉士実習 …… 10 p

・精神保健福祉士実習 …… 12 p

・介護福祉士実習 …… 14 p

・保育士実習 …… 16 p

・実習意見交換会 …… 18 p

○地域活動（福祉バザー）…… 19 p

○メッセージ（卒業生から）…… 20 p

はじめに

福祉教育センター所長　岩田　泉

いじめの後遺症が深刻である。このことが社会的に取り上げられたのは2011年5月に出された、中学時代のいじめによりその4年後に自死した女子生徒についての中学時代の賠償責を認めた判決からである。その後も同様の事件が続き、表面化しないものも含めると相当数の事例があるものと思われる。

私のゼミでおこなった研究（吉野賢一2016「大学生の自己意識、対人関係に被いじめ体験が及ぼす影響について」）においても、大学生178名中45名（25%）が何らかのいじめ被害を受けており、その後遺症に悩まされていることが明らかとなった。また興味深いのは、いじめ被害といじめ加害ともにどちらも体験したものも39名（22%）ほどおり、適応、友人関係、他者評価などにマイナスの影響を受けており、この傾向はいじめ被害を受けたものとほとんど変わらないか、より影響が大きいことが明らかとなった。いわゆる、被害と加害の反復、連鎖ということか、いずれにしろ「人はされた嫌なことを、他者にくりかえす」という暴力の論理を証明しているように思えるのである。

報道等においても、いじめによる子どもの自死事件が起こると教師の責任が問われ、非難の対象となる。確かに、クラス集団をマネジメントするのは教師であるからその責任は大きいが、それ以上に教師のうけるトラウマも大きいのではないか、そうした視点で、教師の対応や教育委員会の対応を見ると、ことさら感情を抑えた理性的対応の理由がわかるように思えるのである。したがって、教師を非難するだけでは、真の意味での「子どもの居場所としての学校」は構築できないのではないだろうか。

文部科学省は、平成25年より「スクールソーシャルワーカー活用事業」の実施について要綱を定め、教育分野の知識に加えて、社会福祉の専門的知識・技術を用いて、子どものおかれた様々な環境に働きかけ・支援行うソーシャルワーカーを配置し、教育相談体制の整備を行うとしている。これを受ける形で各自治体もスクールソーシャルワーカーの導入を本格化しているのである。今後、センターにおいても、学校ソーシャルワークの講座を設けるのも一つの社会貢献となるのではないかと考える。

国家試験受験対策

福祉教育センターでは、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験のためのオリエンテーションや模擬試験、対策講座などを実施しています。

スタディ21（問題演習支援）

スタディ21は対策講座や講義で学んだ知識を問題演習を通して定着させること、各自の勉強方法の確立を目的とした学習グループ勉強会です。4月から社会福祉士を目指す4グループ、精神保健福祉士を目指す1グループに分かれて毎週1回行いました。

模擬試験・成績管理

国家試験の問題傾向の把握や得意不得意科目の確認を目的に、4年生を対象とした模擬試験を全8回にわたり実施しました。福祉教育センターが独自に開発した「成績管理システム」を用いて、模擬試験の結果をチャートにしてフィードバックを行い、弱点の克服や受験へのモチベーションの維持に活用しました。さらに、本格的な受験勉強を前に各自の学習状況を把握することを目的として、3年生を対象とした模擬試験も2回行いました。

【４年生】

＜社会福祉士＞	＜精神保健福祉士＞
第１回　3月29日（火）	第１回　3月29日（火）、31日（木）
第２回　6月20日（月）	第２回　6月20日（月）、21日（火）
第３回　8月　1日（月）	第３回　8月　1日（月）、　2日（火）
第４回　9月　5日（月）	第４回　9月　5日（月）、　6日（火）
第５回 10月24日（月）	第５回 10月21日（金）、24日（月）
第６回 11月21日（月）	第６回 11月21日（月）、22日（火）
第７回 12月19日（月）	第７回 12月19日（月）、20日（火）
第８回　1月　6日（金）	第８回　1月　6日（金）、10日（火）

【３年生】

第１回　7月19日（水）
第２回 12月　7日（水）、14日（水）

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験対策講座

福祉教育センターと東京リーガルマインドの共催で対策講座を行いました。この講座では体系的な知識を身につけることを目的とし、講義とともに問題演習にも力を入れたプログラムとなっています。特に今年度は試験直前の総まとめの時間数を大幅に増やしたカリキュラムとしました。また、毎週金曜日2コマの生講義に加え、欠席した際のフォローや卒業生も受講できるようWEB 講座も取り入れています。

受講コース：①社会福祉士受験コース（48 コマ、72 時間）
②精神保健福祉士受験コース（38 コマ、57 時間）
③社会福祉士・精神保健福祉士ダブル受験コース（54 コマ、81 時間）

日程：毎週金曜日（5 月13 日～ 1 月13 日）
時間：9：30～12：40
対象：本学在学生（社会福祉士・精神保健福祉士受験資格取得見込みの者）、本学卒業生
内容：共通科目（11 科目）、社会福祉士専門科目（8 科目）、精神保健福祉士専門科目（5 科目）、問題演習、総まとめ

国家試験手続き説明会

9月13日（火）国家試験手続き説明会を行いました。国家試験までいよいよ半年となり、願書を手にした学生たちは真剣な表情で、現役合格するための学習アドバイスや具体的な手続き方法についての説明に耳を傾けていました。

データでみる国家試験（2015年度）

	合格者数（現役生）	合格率（本学）	合格率（全国）	合格者数（卒業生）
社会福祉士	7名	30.4％	26.2％	7名
精神保健福祉士	4名	40　％	61.6％	0名

＊1999年より362名の社会福祉士、2011年より26名の精神保健福祉士を、
また2010年より保育士131名、2011年より介護福祉士91 名が社会で活躍しています。

私の勉強方法

今年度社会福祉士・精神保健福祉士国家試験を受験した4年生の中から3名、そして卒業生の方に、“私の勉強方法”について紹介してもらいます。

4年　前田　愛咲美（社会福祉コース）

使用した教材

- 2017　社会福祉士国家試験過去問解説集
- 2017　社会福祉士国家試験過去問　一問一答＋α
- 見て覚える！社会福祉士国試ナビ2017
- 対策講座(東京リーガルマインド)のテキスト
- 大学で実施した模擬

目指す資格

社会福祉士

試験勉強への取り組み

国家試験対策の授業は3年生の春学期から履修していましたが、4年生に進級するまで国家試験を受けるのだという意識や自覚があまりないまま過ごしていました。4年生になり、対策講座やスタディ21が始まったことで、ようやく国家試験を意識した勉強を始める機会ができたと思います。

スタディ21では、週ごとに決めた科目を分割し、一人ひとりが割り振られた範囲をレジュメ形式でまとめて発表していました。穴埋め形式のプリントを作成したりなど、メンバー一人ひとりが相手にわかりやすく伝えるための工夫をし、共有することで、難しい科目も少しずつ内容を理解していくことができました。対策講座で学んだ内容もスタディ21の時間にもう一度さらうことで、知識を再確認することができました。ですが、春学期にはまだ毎日勉強する習慣がついておらず、危機感のないまま夏休みを過ごしました。

危機感を感じ始めたのは国家試験3か月前の10月でした。福祉教育センターの入り口に国家試験までのカウントダウンの紙が貼られ、毎日その数字が減っていくごとに焦りを感じるようになりました。10月に受けた全国統一模試の結果をみて、このままでは合格できないと感じ、大学の図書館に通う習慣をつけようと決めました。課題のように決められた範囲だけでなく、自分がやるべきところ、やらなければならないところを自主的に勉強することになかなか慣れることができませんでしたが、自主的な勉強を積み重ねることで、今まで全く理解のできなかった分野の内容に「なるほど！」と思えることが増えてきました。国家試験1か月前は苦手な科目がはっきりしているため、そこを重点的に勉強しながら過去問や模擬試験の冊子を通して全科目を満遍なくさらいました。また、スタディ21を通して最終確認をし、本番に備えました。

勉強のポイント

それぞれの科目のすべての内容を理解しようとせず、まずは科目ごとによく出題される範囲を確認し、そこから重点的に勉強し始めることをおすすめします。過去問も解くだけでなく解説までしっかり読みこむことが大切だと思います。一つの解説を理解することで、他にも何問か解ける問題が出てきます。模擬試験の問題も今年度の出題傾向を予想する大事な教材だと思います。捨てずに何度も解きなおすことで、テキストには載っていない新制度などの新しい知識を得られることもあります。本番が近い時期に、特に不安だと思ってしまった分野はとにかく紙に書いて、過去問を自分で解説しながら解きました。直前期なので多少疑問があってもあまり気にせずに、じっくりやるよりさっぱりと勉強をする方が良いと思いました。

おわりに

試験前日に思ったことは、「もっと早いうちから勉強していればよかった」という後悔でした。一生懸命になって勉強した期間の長さは自信の大きさと比例すると思います。早いうちから国家試験を意識して、ほんの少しの時間でもコツコツと勉強を続けていれば基礎は出来上がっていくと思います。「基礎を理解していない」ということは、試験を受けるうえでの大きな穴であるということを沢山思い知らさることがありました。基礎力を早い時期から身につけておくことが大事だと思います。

また、1人で勉強していて気が滅入ってしまいそうなときは、友人たちと集まって問題を出し合ったり教えあったりしながら刺激を受けあったり励ましあうことで、モチベーションを高めることができます。私が本番までモチベーションを保てたのは、同じ目標を持つ友人たちがいたからだと思います。上手く息抜きをしながら、最後まで「合格したい」という強い気持ちと意欲を忘れずに本番まで突き進みましょう。大丈夫！

1日の平均勉強時間	4～7時間
1日の平均睡眠時間	6～8時間
対策講座出席率	100%
模擬試験平均点	86.3点

4年　服部　花恋（福祉心理コース）

使用した教材

・対策講座(東京リーガルマインド)のテキスト
・2017 社会福祉士国家試験過去問解説集
・見て覚える!社会福祉士国試ナビ2017

目指す資格

社会福祉士・精神保健福祉士

勉強への取り組み

4月頃は国家試験を受けるにあたって、どのように勉強したらよいかわからない状態でした。就職活動もあって国家試験の勉強についてあまり意識していなかったと思います。そのため、この時期は週1回対策講座に出席し復習することを行いました。対策講座では、国家試験の出題傾向や出題されやすい内容、最近の制度改正等について教わり、徐々にどのように勉強を進めていくのかイメージが湧いてきました。

6月前半には就職活動を終えたため、国家試験の勉強に集中できるようになったと思います。その頃に過去問解説集を買い、過去3年分の問題を解いていました。過去問や模試の解説を読み、間違っている選択肢について何がどのように間違っているのかを知ることによって「こんな引っかけ方があるのか」「ここは勘違いしやすい内容だから問題を出しやすいのだな」といった傾向がある程度わかるようになりました。模試や過去問を解くことによって問題に慣れる、時間配分も考えるようにするということを夏休みが終わる時期までやっていました。

秋学期になってからは対策講座と模試の復習は続けていましたが、覚える範囲が広いため、覚えれば覚えるほど様々な内容と混ざってしまったり、春学期にこれは忘れないだろうと思っていた内容を忘れてしまいました。春学期に詰め込みすぎたと思い、1日分の勉強量や勉強のペース配分を考え直し、少ない量を確実に覚えるようにしました。電車通学だったので電車の中で参考書を見る等、少しでも空いている時間を勉強に当てるようにし、12月後半頃からペースや勉強量を段々上げていきました。

1月になってから最後の模試で初めて0点科目を出してしまいました。苦手な科目ではなかったので油断したことが原因だと思い、どんな教科でも油断をせずに全科目しっかりやると意気込んで本番前の2週間くらいは参考書を最初から丁寧に読み、ノートに書くことを繰り返しました。

勉強のポイント

まずは3年分の過去問を少なくとも1周はしたほうが良いと思います。出題傾向を知ることによって「ここ出るかもしれない」といった目処がつくので勉強しやすくなります。問題を解く数をこなすことで解答のスピードも上がり、時間配分にも余裕が出てくるのでとにかく多く問題を解き、国家試験の問題に慣れることが大切だと思います。

また、スマホで社会福祉士や精神保健福祉士の過去問が解ける無料のアプリがあったので、ダウンロードし通学中や寝る前に解いていました。そういった少しの時間を勉強に当てることも効果があると思います。

あとは、自分に合いそうな参考書を選ぶことと、睡眠をしっかりとることが学力向上に繋がると思います。

おわりに

国家試験の範囲はとても広く、頑張って勉強していても模試の成績が伸びなかったり、覚えようとしているのに覚えられないといったスランプ状態になることがあったり、勉強を頑張るほど後ろ向きな気分になってしまうことがあると思います。だから友だち等の身近な存在の人に励ましてもらったり、自分の精神が安定するような気分転換をこまめにすることも大切だと思います。国家試験は気持ちを強く持ち続ける持久力が必要なので、頑張り過ぎて本番前に燃え尽きてしまわないように、自分の精神面のことも配慮したうえで勉強を頑張ってください。応援しています。

1日の平均勉強時間	4～6時間
1日の平均睡眠時間	8時間
対策講座出席率	63.6%
模擬試験平均点	84.9点（社会福祉士）
	91.5点（精神保健福祉士）

4年　野戸　愛実（介護福祉コース）

使用した教材

・対策講座（LEC東京リーガルマインド）テキスト
・見て覚える！社会福祉士国試ナビ2017
・2017社会福祉士国家試験過去問解説集

目指す資格

介護福祉士・社会福祉士

勉強への取り組み

私が国家試験に向けて勉強を始めたのは、対策講座やスタディ21が始まった春頃でした。最初の頃の学習は、対策講座やスタディ21で勉強したことを復習する程度で勉強時間がとても短かったと思います。学校で勉強したからと自宅で勉強しない日もありましたが、まずは、8月と9月に大事な模擬試験があるので、そこに向けて徐々に真剣に勉強に取り組むようになりました。

夏休み中は対策講座で行っているweb講座を利用し勉強していました。自分の苦手分野やわからないところは何度も繰り返し見ることができるので、自分のペースに合わせた学習ができると思います。

10月にはソーシャルワーク実習が始まり、国家試験の勉強をする時間があまり取れませんでした。そのため、実習期間中の模試は点数が下がってしまいました。実習が終わってからは、気持ちを切り替え、試験に向けて勉強に取り組みました。この時期は、今まで行ってきた模試を改めて解き直すことや一問一答を繰り返し解いていました。また、1月の最後の模試が終わった後からは、改めて過去問を繰り返し解いていました。

おわりに

私は、実習期間中に模試の点数が下がってしまい自信をなくし、諦める気持ちが大きくなってしまいました。しかし、対策講座やスタディ21は休むことなく出席していました。また、先生方にまだ時間はあるから大丈夫と何度も励ましていただきました。1月の最後の模試でも点数が上がらず、国家試験本番まで残り2週間程となってしまいました。落ち込んでいる暇もないので、開き直ってとにかく最後まで頑張ろうと思い当日までを過ごしました。最後まで勉強し続けたことで国家試験本番では、点数を大幅に上げることができました。

国家試験の勉強は、何度も繰り返し行うことが大切だと思いました。コツコツと少しずつでも続けていくことで知識が増えていきます。私は、実習期間中に勉強時間を確保することができませんでしたが、移動中の電車などの少しの間でも勉強できると思います。残りの日数が少なくなるほど、あの時もっとちゃんと勉強しておけばよかったと思いました。後輩の皆さんには、後悔のないよう頑張ってほしいです。

1年間国家試験に向けて勉強をしてきて何度も嫌になり諦めようと思ったことがありました。しかし、最後の本試験の結果を見て諦めずに頑張ってきてよかったと思えました。先生方が励ましてくれたり、友だちも頑張っているから自分も頑張らなきゃと思いました。同じように頑張っている友だちがいたから最後まで続けられたのだと思います。これから勉強していく皆さんも励まし、支え合いながら頑張ってください。応援しています！

1日の平均勉強時間	4～6時間
1日の平均睡眠時間	6時間
対策講座出席率	86.3%
模擬試験平均点数	74点

卒業生　若林　愛（福祉環境情報学科2004年卒）

使用した教材

・対策講座（東京リーガルマインド）のテキスト
・全国統一模擬試験
・2017　社会福祉士国家試験過去問　一問一答＋α

目指す資格

社会福祉士

社会福祉士を目指すきっかけ

私が城西国際大学福祉環境情報学科を卒業したのは2004年でした。当時は福祉を学ぶ為に入学したにもかかわらず、正直、福祉分野にほとんど興味がありませんでした。そのため、4年次に受験した国家試験はもちろん不合格でした。

その後、地元の社会福祉協議会に就職し、配属された部署は高齢者と障害者が通うデイサービスでした。現場に配属されたこともあり、相談業務や資格に関心を持たず、ただ何となく5年間勤め、結婚を機に退職しました。

そんな私がなぜ10年以上を経て「社会福祉士をとろう！」と気持ちが変化したのかというと、一旦労働という場から離れた時に、子供を育てる為に必要なことは何だろう、育児が落ち着いてきた時に自分に何が出来るのだろうと考える時間ができたことからです。

そこでまず、育児と仕事の両立を始めることにしました。子供との時間を大切にしたかったので、パートとして民間のデイサービスで働き始めましたが、子供の急な体調不良で欠勤や早退をしたり仕事に支障をきたすこともあり、また何より数年のブランクで介護技術が大きく変化していることを身に染みて感じ、育児と仕事の両立に大きな壁を実感しました。また、子供を育てるには金銭面での負担も大きく、パートでは社会保険の適用にならなかったり、学資ローンが組めなかったりと社会の壁も目の当たりにすることになりました。 このような経験から、「保険や育児に関する知識や制度の理解」、「自ら安定した収入を得る」、それには社会福祉士が必要だとやっと気づき、大学で学んだことを生かしたいと思うようになりました。その気づきと同時に、大学時代の友人が同じく社会福祉士を目指すと聞き、前回の28回の国家試験受験を決め、子育てと仕事の中に「受験勉強」というものが加わりました。しかし、なかなか受験勉強する時間を確保できず、28回の試験も不合格となりました。現役時代の私ならここで諦めていましたが、一緒に受験した友人は見事合格し、負けず嫌いな性格と、子育てが落ち着いた今、自分が出来る事を見つけられたような気がした私は、「29回は何としてでも受かってみせる！！」と社会福祉士取得に意欲が芽生えました。

それから在学当時お世話になった先生に連絡をとり、卒業生でも受講できる対策講座を紹介して頂き、福祉教育センターへ足を運ぶようになり、本格的に「社会福祉士合格」に向けて動き出しました。

勉強への取り組みとポイント

10年越しの国家試験への難問はたくさんありました。まずは当時とは受験科目が変わっているため、履修していない科目もありましたし、制度も大きく変化し、知識の乏しい私は0どころかマイナスからのスタートでした。

そのため、いきなり過去問を解くのではなく、解答解説を見ながら間違っている文章を自分が理解できるように赤ペンで正答文に書き換え、自分専用の解説本を作りました。解説本を作っていると、似ている用語（例えば日常生活～など）が度々あり、うまく整理出来なかったので、あいまいな知識が確実になるように、過去問の中からで似ている用語や問題を探し、対策講座のテキストで調べ、調べた用語を付箋に書き込み、混同しやすい用語として見比べられるようにしました。また科目をまたいで同じ用語が出題されることもあるので、確実に覚えるためにその都度付箋に書き込むことを繰り返しました。すると過去問の中で何度も出題されるキーワードが次第に頭に入り、似ている用語の理解が出来るようになり、確実に覚えた用語の付箋を外していくことで、自分がつまづく問題や苦手な分野が分かるようになりました。また何度も間違えてしまう問題は、一足先に合格した友人に直接解説しもらうこともしました。

秋頃からの勉強は共通科目を重視し、中央法規の一問一答を始め、勉強する順序を「権利擁護から低所得者」「障害者から就労支援」「福祉財政から社会保障、保健医療サービス」「現代社会から地域福祉」と関連している科目をまとめて解いていくことで、共通科目全体を勉強しているという流れが出来上がるようになりました。

そして試験直前は、新たに覚えるよりも、自分が今までまとめてきた用語をしっかり理解することに重点をおき試験に臨むことにしました。

おわりに

社会に出て働きながら受験勉強することは本当に大変なことです。自分の為に使える時間はどんどん減ってしまうからです。仕事をし、子育てをし、自分の時間が取れるのは夜中しかありません。しかし、あまりに受験勉強中心となり過ぎては仕事に支障をきたしたり、家族に迷惑をかけてしまうことになります。

社会情勢に関心を持ち、これから多様に変化する社会についていけるように、自分に使える時間がたくさんある今こそ、しっかりと学ぶことをお勧めします。

社会福祉士は相談職に就いていなくても、会社で働く上での人間関係の構築、子育てや介護、家庭と仕事の両立など自分の身近な生活の中でたくさんの知識が役に立つ場面が出てくると思います。

また、今一緒に学んでいる友達や、教えてくれている先生方、誰でも気軽に顔を出せる福祉教育センターを大切にすることで、自分が困った時に何かしらの糸口を見出してくれると思います。

ひとりでも多く城西国際大学から社会福祉士の知識を生かし社会で活躍してくれることを卒業生として期待しています。

1日の平均勉強時間	4～6時間
1日の平均睡眠時間	6時間
対策講座出席率	63.6%
模擬試験平均点数	83点

福祉総合学部では、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格、介護福祉士・保育士の国家資格を取得することができます。福祉教育センターでは、現場実習に関する相談や諸手続き、実習施設の情報を提供しています。また、これらの現場実習が円滑に行われるように教員や実習施設の方々との連携を図っています。

今年度は185名の学生が175施設で実習を行いました。では、今年度の実習の成果をそれぞれの実習ごとにご紹介します。

社会福祉士実習　実習生42 名／29 施設

社会福祉コース　３年 奈良 優輝
実習種別：特別養護老人ホーム
実習期間：Ⅰ期 平成28年10月 3日～10月17日
Ⅱ期 平成28年10月31日～11月15日

１．実習内容

私が今回、実習を行った施設は、「We are not alone ～共に助け合って生きる～」を理念に、花・鳥・風・月の4 つのユニットとデイサービスに分かれている施設であった。花ユニットは短期入所、鳥・風・月ユニットは長期入所のユニットであり認知症の状況によってユニットが分けられていた。

Ⅰ期では、主に花ユニット、デイサービス、医務の現場での実習を行った。主にコミュニケーション、食事、排泄、入浴、移乗などの介助や補助を行った。

Ⅱ期では、法人内の別の特別養護老人ホーム、介護予防施設、ケアハウス、在宅支援センター等を見学した。また、長期、短期、デイサービスの相談員、居宅ケアマネージャーに同行させていただきカンファレンス、居宅訪問、新規入所予定の方の調査、送迎に関わらせていただいた。最後の２日間は実際にアセスメントをとり、ケアプランを立てた。

２．実習のテーマと取り組み

Ⅰ期は「コミュニケーションを通じて利用者の方との信頼関係を築く」、「施設の相談員としての具体的な支援内容や役割を理解する」の2つのテーマを挙げた。利用者の方との信頼関係を築くためには、一人一人に合った関わりが大切だということを学んだ。そのために、実際のコミュニケーションや職員の方の利用者さんに対する関わりの観察、職員の方に尋ねるということを行った。Ⅰ期では、相談員の方に同行する機会があまりなかったが、短期相談員の方から話を伺うことができ、実際の支援内容や役割を理解することができた。

Ⅱ期は「利用者と家族との関係を把握したうえで、利用者のストレングスに着目した個別支援計画の作成を行う」、「多職種連携を理解し、その中の社会福祉士の役割を理解する」の２つのテーマを挙げた。今までストレングスについては「～ができる」というような才能・技能にのみに着目していたが、「歩きたい」などという意思もストレングスだということを学んだ。また、個別支援計画作成において、実際に立ててみると、様々な視点をもって利用者さんのことを考えることが必要だということ、見るだけでなく実際に関わらないと利用者さんのニーズを把握できないということを学んだ。ストレン

グスに着目した個別支援計画を作成するとテーマに挙げていたが、ストレングスについては全く考えずに行ってしまった。多職種連携としては、毎朝の朝礼における夜勤の報告、利用者さんの身体状況に問題が発生した際の医務との連携、カンファレンスの見学、入退所時のユニットスタッフと相談員の連携等様々な面で連携が行われていた。その中での社会福祉士の役割は、施設内（介護職員、医務等）と施設外（家族）の橋渡しのような役割があるということを理解した。

3．考察

Ⅰ期では、介護は一人一人に合った対応が必要だということを実際のコミュニケーションや職員の方の利用者さんに対する関わりの観察、職員の方に尋ねるということから学んだ。認知症の方であっても、症状は一人一人異なっており、ADLが自立している方や行動・動作のほとんどに介助が必要な方もいる。食事形態や水分摂取量、排泄のタイミングなども一人一人異なっている。また、何時と何時に煙草を吸い、食事後は必ず飴を食べ、何時にトイレに行く等こだわりが強い方もいる。さらに、ご家族の意向も一人一人異なっている。利用者の方は数か月前までは一人で歩けていたのに、たった数日熱を出して寝込んでしまうだけでADLが下がってしまう。このような点にも気を付けて介護を行う必要がある。以上の点から、一人一人の特徴などを理解し、利用者さんの意向、ご家族の意向を含めたことが介護であるということを学んだ。

Ⅱ期ではアセスメントシートの意義について学んだ。実習では、現在、介護老人保健施設に入所しているが本施設への入所を希望している方のアセスメントを相談員の方がとっている横で実際のアセスメントシートに私も記入した。実際にアセスメントをとり、感じた事、指導を受けたことから意義を学んだ。アセスメントとは相談員が実際にとり、相談員が把握できたから終わりではなく、現場の職員の方に引き継ぐことが大切だということを学んだ。現場の方々は、新規入所の方と初めて会うのが入所日であるため、あらかじめ知る手段はアセスメントシートしかない。アセスメントを取る際、すべてを聞いて把握するのではなく、意思・言語・聴力・歩行・移動などは相談員の方との実際の会話や移動中の観察などによって把握する必要がある。把握できなかった点については、入所前の施設やご家族に様子を聞くという連携が大切である。アセスメントシートを見てその人のことを理解できるように細かいことも記し、理解できるように書くことが大切だということを学んだ。

4．実習の成果と今後の学習課題

実習を通して、授業等で聞くことしかできずイメージができなかった介護現場の実際や相談員の役割・技術を、実際に体験・見学させていただいたことにより理解が深まった。また、利用者の方を理解するという事、コミュニケーションを図る事の大切さも実習で経験したことにより理解が深まった。

私は利用者の方について理解したこと、職員の方から聞いたこと等を聞いて理解はできるが、得たことを自分であればどうするか、またどう生かしていくかを考えるということをしない。社会福祉士としてこのような視点を持たなければ成り立たないため、そのような視点をしっかり持つように心掛けることが今後の課題である。

精神保健福祉士実習　実習生8 名／7 施設（地域）、8 施設（病院）

福祉心理コース　３年 佐藤 春水
実習種別：病院
実習期間：平成28 年11月7日 ～11 月22日

１．実習内容

私が実習を行った病院では、準総合病院として内科・外科・整形外科・心療内科・神経科・精神科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・リハビリテーション科・専門外来などの機能を持ち、地域住民の多くが利用している。また精神科の救急入院病棟が設置されているため、自傷他害など緊急性を要した患者は24時間入院が可能である。

1～6日目では、精神保健福祉士の業務に同行させていただき、事務処理業務（カルテの記入や入院に関する書類の作成）、電話相談の傍聴（患者家族や外来患者からの相談）、退院前訪問、退院請求の申請に同席、カンファレンスの同席（患者の退院日調整）、カルテの閲覧、面談同席（退院後の生活の場について）などをさせていただいた。

7～12日目では、病棟で患者とコミュニケーションをとりながら抱えている問題について話を伺い、また毎週病棟で行われるグループ療法に参加し、病気や睡眠、専門職の役割について患者とともに話を伺った。

２．実習のテーマと取り組み

①自傷他害などの緊急性を要した患者に対し、どのような視点に着目して支援を行っているのか学ぶ。

入院場面への立ち合いや、救急病棟に入院している患者から話を聞き、さらに指導者と振り返りを行うなかで、治療・入院を拒否する患者が多くいることを再認識し、強制的に入院させることが患者にとって良いことなのか疑問に思った。それについて指導者と振り返りを行い、治療の必要性について考えた上で、「治療→介入→支援」の流れが重要であり、治療が必要であることを患者本人が認識できるよう支援していくことが、専門職に求められる視点であると学んだ。

②①を理解したうえで専門職と患者の関係がどのように築かれているのか理解する。

医療行為や隔離拘束を行うことで専門職が権威的立場になりやすいのではないかと考え、実際に患者から話を聞き、さらに患者と専門職の関わりを観察した。病院での取り組みとしては隔離拘束を最小限にとどめ、また相談員と話したいという訴えに対しては、その場で日程調整し、希望にこたえるなどして関係を築いていることが分かった。また実際に入院している患者に対し、相談員に対するイメージや、助言を受けることについてどう感じているのか話を伺った。その結果、現在の状況に納得している様子で、「うれしい、ありがたい」と言っていた。患者によって考え方に個人差はあるが、専門職と患者の関係が良好に築かれていることが分かった。

③病院から地域への移行支援を学び、自ら支援方法を考える。

カルテの閲覧や業務に同行し、移行支援がどのように行われているのか理解した。病院が行う移行支援は、入院前に生活していた場所への退院を目指して支援を行っ

ていた。退院先としては自宅が多く、家族からの拒否等により自宅へ戻れない場合はグループホームが選択肢となるため、多機関との連携と家族支援が移行支援において重要であることを学んだ。

3． 考察

相談員の業務に同行している際、統合失調症患者の入院受け入れがあった。過去に入院歴があり、退院後も通院が必要であったが、通院・服薬を拒否し、3年間引きこもりになっていた患者である。以前から両親に対して暴力があり、今回母親が暴力を受けて入院となったため、父親からの相談で医療保護入院となった。移送の際には激しい抵抗があり、診察時にも「僕は大丈夫だから今日は帰ろう、お父さん何か言ってよ」としきりに同席していた父に声をかけていた。入院歴があることから、自宅に戻っても繰り返しになるのではないかと考えたが、薬の効果は確認できているため、治療の大切さを分かってもらえるよう支援していく必要があると、相談員から話を伺った。今回のケースは、家族が限界を感じて入院に至ったが、相談もしくはSOSを発することができなかったケースを考えると、表面化しない問題に対しては支援ができない専門職の立場に複雑な気持ちを抱いた。そのことを指導者に伝えると、早期に治療ができなかったのは、家族に入院させたくないという思いがあったからだと伺った。患者本人に病識が無く、治療を拒否している場合には、家族の協力が必要となるため、入院後の支援としては患者に対して病識を持ってもらえるよう、繰り返し病気や薬の効果について説明していくことはもちろん、家族への説明とケアが今後の生活に効果的だと学んだ。

4． 実習の成果と今後の学習課題

今回病院実習を行うことで、精神障害者を地域へ送り出す側の支援や視点を学ぶことができた。地域実習で関わった利用者は、病院に対して「強制的に入院させられた」「自由を奪われた」と話していた。また今回の実習で入院場面を見た際には、患者が治療を拒否する様子も伺えた。そこで家族の同意があっても、患者の同意なく入院させることが良いことなのか疑問に思い、指導者に打ち明けたところ、「患者をみて治療は必要だと思いましたか？」と聞かれた。物事を主観的に捉えることが多く、治療は必要か考えたことが無かったが、指導者からの問いかけで精神疾患は後天性であり、何らかの問題やストレスを抱えたことにより発症することが多いため、「治療は必要である」と考えることができた。地域移行支援では患者が治療への理解を示すこと、病識を持つことが重要となり、そのための支援が精神保健福祉士に求められていると学んだ。

今後の学習課題は、実習を行う中で制度やサービスに触れることが多く、説明を求められた時に答えられなかったことから、調べて終わりではなく実際に人に説明することで理解できているかどうか確認する必要があると感じた。また今後の目標としては、病院や施設などの機能や役割、その効果を所属機関に関わらず、利用者に伝えられるような支援をしたい。

介護福祉士実習　実習生59 名／32 施設

介護福祉コース　2 年 玻名城 咲子
実習種別：介護老人保健施設
実習期間：平成28 年2 月5 日～2 月19 日

1．はじめに

私は今回、介護老人保健施設で12日間の実習をさせて頂いた。実習内容は、利用者とのコミュニケーションを中心として、食事介助、入浴介助、排泄介助等の見学と、職員の指導のもと一部実践を行った。また、療養棟だけでなくデイケアも見学させて頂き、利用者とのレクリエーションやご自宅までの送迎等を体験させて頂いた。

2．実習目標と達成状況

（1）実習目標

1）日常のふれあいの中でコミュニケーション等を通じて利用者を理解する。

2）施設における利用者の生活リズムと介護者の役割について理解する。

（2）達成状況

1）初めは、利用者の名前を覚えることを意識し、日中ホールで過ごされている利用者とは、最低でも1回はコミュニケーションを図ることを心掛けた。日を重ねるにつれて、利用者の好みや、昔の話などを聞くことができ、相手を知ることで少しずつ距離も縮めることができた。利用者と会話することも多かったが、話をするだけではなく、傾聴の必要性も学ぶことができた。一人の利用者とは、文字を通してコミュニケーションをとることもあった。

その他にも、利用者はアイコンタクトやボディータッチなど様々な方法を通して情報発信をしていて、一人ひとりに合ったコミュニケーションの方法があるということを理解した。

2）施設内はゆったりとした雰囲気だったことが印象的である。午前中は機能訓練やラジオ体操を毎日行っていた。しかし、午後になると多くの利用者が会話も減ってしまい、ホール内もとても静かだった。

デイケアを見学させて頂いた際は、利用者は施設に通うことで他の人と会話をしたり、午後からのレクリエーションを楽しみながら、刺激を受けていると感じた。職員は利用者の様子を見ながら声掛けをしていて、１日を通して施設の中が騒がしくもなく、静かすぎることもなく、利用者が落ち着くことができる環境をつくっていた。

デイケアの利用者は、施設が生活の場ではないため、家族との連携も大切だと学んだ。また、一つの介助は利用者それぞれに意味があり、利用者の状態や日々の体調の変化を把握し、職員同士の連携はもちろんだが、看護師や他職種と連携をとることで、一人ひとりに合わせた介助を行っていることを理解した。

3．考察

今回の実習を通して、コミュニケーションについて学ぶことができた。職員からは「コミュニケーションは、送信と受信であり、信頼関係を築くためにも重要であるということ。いい送信を送り、いい受信を受け取れる２つの能力を持つことが必要であるということ」を教えて頂いた。

対人援助だからこそコミュニケーションは必要不可欠であり、日々のコミュニケーションを通して、利用者に合った様々な送信、受信の方法があるということに気づくことができた。利用者からの些細な情報発信を見落とすことなく、しっかりと情報を受け取ることができるように、利用者との関係を築き、広い視野を持つことが重要だと学んだ。

介助の際には、時間がかかることが多く、必要以上に利用者の体力を奪ってしまった。利用者の状態を把握し、介助の方法だけでなく、行う介助の流れを理解することが必要になると感じた。また、利用者が自分で行っていることをよく見て、その上で必要な所をサポートできるように、観察力も身につけていきたい。

4．実習の成果と今後の学習課題

今回の実習は、コミュニケーションを中心に介助の見学と一部実践をさせて頂き、実際の現場だからこそ気づくことのできる利用者の多様性や、それぞれの利用者に合った介助の応用を学ぶことができた。さらに、デイケアやカンファレンスも見学させて頂き、看護師やリハビリ専門職等、多職種連携の実際を学ぶことができた。異なる専門職が利用者と関わる中で、違った立場からの気づきや変化を共有することが、支援の始まりであると理解した。

Ⅱ段階では、もっとコミュニケーション能力を高めることを意識し、実施する介助の必要性を理解したうえで、一人ひとりに合った利用者との接し方や具体的な声掛けを行っていきたい。

保育士実習　実習生115 名／99 施設

子ども福祉コース　3 年 新井山 実伽
実習種別：公立保育所
実習期間：平成28 年11 月7 日 ～11 月21 日

1．実習で取り組んだ実習内容

今回の実習では、0歳児に1日、1歳児、1～2歳児、4歳児に2日ずつ、2歳児に4日間配属された。また早番、遅番、部分実習、全日実習など様々な経験をした。2歳児クラスで行った全日実習の主活動では、スズランテープで作ったしっぽを使い、しっぽ取りゲームをして楽しんだ。2週間の実習の具体的な内容としては、登所から降所までの間保育室や所庭で子どもたちと一緒に活動をし、天気が良好な日には近隣の公園で園外活動を行い、着替えや食事、排泄の援助、時には喧嘩の仲裁などを行った。また、給食の前にペープサートを行ったり、空いた時間を利用して紙芝居の読み聞かせや手遊びを行ったりした。

2．実習の目標と達成状況

今回の実習では、①子どもと積極的に関わりながら、子どもの発達や行動について理解を深めていく、②保育者の援助の仕方を多く学ぶだけでなく、援助の仕方を見る中で保育者の関わりの意図を知るという2つの目標を立てた。1つ目の目標については、今回の実習でおもに0～2歳児までのクラスで実習を行ったことで、それぞれの年齢の運動機能や指先の発達、遊びの発達を学ぶことができた。また、行動についてはするように言われた事を、「やだ」とやりたがらなかったり、他の子供から玩具を取り上げたり、押したり、叩いたりなどの行動が多く見られた。最初の頃は緊張から固い表情が見られたが日を追うごとに子どもたちと積極的に関わり、それぞれの年齢の子どもの発達や実際の子どもの行動について理解を深めることができたと思う。2つ目の目標については、食事の場面での介助の仕方や声かけなど最初はどうしたらよいかわからなかったが、保育者の声かけの仕方を観察し真似したり直接どうしたらよいか聞いたりすることで徐々に対応することができるようになった。また、その援助の仕方を見る中で保育者の関わりの意図を知ることができた。例えば食事の援助の仕方を見る中で保育者が子どもに対して、「もっと口を大きく開けて食べてね。」と声かけをしていたが、保育者に聞いたところ、その子どもはいつもお話をする際にもごもごしていて何を喋っているのか聞き取りづらいため、普段から口を大きく開けるトレーニングをして直していこうという意味があることを知ることができた。

3．実習で学んだこと・反省点・今後の課題

今回の実習では2回目の保育所であったが、1回目の実習で学んだことの再確認に加え、新たに様々なことを学ぶことができた。まず1つ目に、年齢は同じでもクラスや個人によって発達や特徴に違いがあるということを再確認することができ、その違いがあるからこそ発達状況を理解し、一人ひとりに合った援助をすることが必要だということがわかった。2つ目に、喧嘩の仲裁の仕方で

ある。子どもたちが取り合いや言い合いなどをしているときは、まずお互いの話を聞いて気持ちを受け止めたり代弁をしたりして対応したりしていた。しかし、喧嘩の原因や状況によっては叩いたり物が壊れそうなときもあるので、その場合は保育者が一旦物を取り上げたり、子ども同士を離したりするなどの対応も必要だということも学んだ。3つ目に、全日実習の経験から学んだこととして、保育者という立場で子どもを見守り、援助しながら1日をスムーズに進めていくことの難しさと大切さである。子どもたちの特徴を理解することはもちろん、目標やねらいを明確にし、臨機応変に進めていくことの大切さを学んだ。

反省点としては、全日実習での主活動の事前準備不足が多くみられた。主活動の準備にもっと計画的に前もって取り組んでおけば、焦らずに様々な場合を想定して準備することができたのではないかと思った。また、あまり自分が慣れていない分、やりすぎるぐらいの準備をする必要があったと思った。今後の課題は主活動の準備などは焦らずに計画的に様々な場合を想定して、前もって取り組んでいくことである。対応としては、早めに保育者に聞いたり相談したりすることである。今回の実習で学んだこと、反省点を活かして今後もさらに勉学に励んでいきたいと思う。

平成27年度「実習意見交換会」を開催しました。

3月10 日（木）、本学図書館1 階オリエンテーションルームを会場に「実習意見交換会」を開催しました。

実習意見交換会は、実習先である各施設の実習指導者と学部教員が率直な意見を交換し、実習教育（ソーシャルワーク実習、精神保健福祉援助実習、保育実習、介護実習）の向上を目指すものです。

当日は36の福祉施設や病院、保育所などから44名の実習指導者の方々が参加されました。全体会では、福祉教育センター所長の岩田泉教授から学部教育の趣旨と今年度の実習、国家試験についての報告がされ、次にコースごとの分科会に分かれ意見交換を行いました。

分科会ではまず始めに学生らによるパワーポイントを用いての実習報告が行われました。障害者の就労や社会的入院の問題、利用者ひとりひとりの人生に合わせた支援とは等、実習を通して得られた問題意識や課題についてグループでまとめ発表しました。その後、実習指導者と学部教員が今年度の実習を振り返りながら成果や今後の課題について活発な意見が交わされました。

地 域 活 動

福祉バザー

11月5 日(土)、学園祭にて、地域の福祉施設と協働で「福祉バザー」を開催しました。この福祉バザーは、学園祭に来ていただいた方々に地域の福祉施設のPRと理解を深めてもらうために2001年から始めたもので、恒例となっている福祉教育センターの行事です。

今年も実習や就職等でお世話になっている5つの施設に参加していただきました。施設職員の方々や利用者の方々、ボランティア学生、教員など総勢 37名の皆様にご協力いただき、総額で135,950円の売り上げとなりました。これらは各施設の収入として活用されます。ご協力ありがとうございました。

参加施設：オリーブハウス（就労移行支援事業所）
就職するなら明朗塾（障害者支援施設）
スペースぴあ（就労継続支援B 型事業所）
聖家族園（障害者支援施設）
ワークショップしらさと（就労移行支援・就労継続支援事業所）

3 年生 上野 遙香

私はオリーブハウスの担当となり、手作りアイスやクッキー、キーホルダー、絞り染めなどを利用者の方、職員の方と一緒に販売しました。利用者の方に、施設ではどのような活動をしているのか、手作りの作業についてや好きなことなどを聞きながら販売しました。さらに職員の方ともコミュニケーションを取ることができとても良い機会になりました。

学生ボランティアもたくさん参加してくれたため、準備や片付け、当日の販売などもみんなで一緒に行うことができ、授業や日常での関わりだけでなく、ボランティアを通して様々な知識を出し合い、利用者の方と一緒に楽しめる福祉バザーを行うことができて良かったです。今後もまたこのような機会を見つけ積極的に参加していきたいです。

☆☆☆ メッセージ ☆☆☆

卒業生から

福祉総合学部では2000年3月に第１期生を輩出して以来、毎年多くの卒業生が福祉分野のみならず一般企業や行政、医療機関など様々な分野へ就職し活躍しています。今回は特別養護老人ホーム第2ワールドナーシングホームで生活相談員としてご活躍の上地恵大さんにメッセージをお寄せいただきました。

社会福祉法人 清和会
特別養護老人ホーム 第2 ワールドナーシングホーム
生活相談員／社会福祉士　　上地　恵大（2011 年卒業）

私は、船橋市にある特別養護老人ホーム第2ワールドナーシングホームで生活相談員として勤務しています。主な仕事内容は短期入所を希望する方と施設との橋渡しです。独居で在宅生活が困難になった方や要介護者が体調を崩し一時的な利用など理由は様々です。ケアマネージャーや家族からの相談の中で「今」何に困っているのか、何が必要なのかを瞬時に察して利用に繋げられる様に日々奮闘しています。常に相手への「気配り」「目配り」「こころ配り」を念頭に支援しています。目の前にある問題や悩みを一人で抱え込まない様に「WE ARE NOT ALONE 共に助け合って生きる」を掲げる法人理念の下、皆で協力して支援する事がやりがいの1つとなっています。

対人援助では専門的な知識や高度な技術が求められ、学生時代にもう少し勉強しておけば良かったと思う日もあります。そこで今回はこれまでの私の経験から、学生生活で大切な3つの「～ing」についてお伝えしたいと思います。

【フィーリング】

先生や友人、先輩、後輩との出会いの中で波長が合う、合わないはあると思います。ただ、最初から自身の先入観で相手を判断してしまうと折角の出会いが台無しです。違う角度から相手を見て接する事で良い出会いに繋がります。色眼鏡は外して、素の自分でいきましょう。

【タイミング】

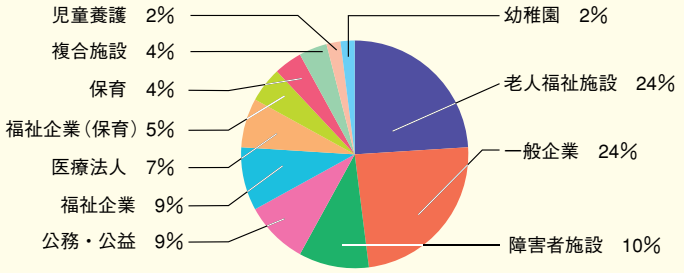
相手との距離を近づける為には「タイミング」が大事です。タイミング1つで相手への印象も変わります。よいタイミングを見計らうには相手をよく見て、心情を察してアプローチすると良い関係性に繋がると思います。

【ハプニング】

予期しない事が起こったらラッキーだと思いましょう。そこから学ぶ事は沢山あります。人として成長できる場面でもあり、以後社会人になっても臨機応変に仕事をこなす為にも必要不可欠になってきます。嬉しいハプニングがきっかけで生涯の伴侶と出会うかもしれません。

仕事を通して、３つの「～ing」は人間関係を築く上で非常に大切だと改めて感じています。すべての出逢いに感謝して有意義な時間を過ごしてください。心から応援しています。

データでみる卒業生（2015年度福祉総合学部就職先内訳）



城西国際大学福祉教育センター・ニュースレター
WELL　SAILING　第17号
発行日　2017（平成29）年３月31日
発行者　城西国際大学福祉教育センター
〒283−8555　千葉県東金市求名1番地
TEL　0475-53-2181　FAX　0475-53-2186
ホームページ　http://jiu.ac.jp/fkc/index.html